

2022年10月26日 Vol.204

年末に向け上昇傾向が期待されるマザーズ指数

日銀介入でやや上げピッチの速かったドル円相場がスピード調整。1ドル=152円台を回った円相場下落が一服すると今度は株式に資金が向かう。インフレ抑制のため採られた政策金利引き上げピッチも今後鈍化するのではとの期待感が高まり、調整が続いてきた日米の株式相場にもやや明るさが出始めています。日経平均、TOPIXとも10月3日の安値から25日現在の高値まで6%台の上昇率。下値模索が続くマザーズ指数も同様に安値から直近高値まで8.7%上昇し見送られてきた中小型銘柄にも復活の兆しが見えつつあります。

一気の上昇には至らないとしても年初からほぼボックス圏で推移してきた日本株ですが、ここから年末に向けては明るい展開となるのではとのほのかな期待が高まりつつあります。そこには円安要因ということもあり、インバウンド需要の取り込みやモノづくり企業の国内回帰といったポジティブな話題が聞かれるようになったのも影響しているように思われます。また、現在の日経平均2万7000円前後という水準は年初来高値と年初来安値の中間値を少し上回った水準で投資家の運用成果はまだ十分ではないが、かなり取り戻せたのではないかと思われる水準にきています。これから年末までの残された期間でどこまで運用成果を高められるのか投資家各位の運用スタンスが注目されます。特に、ここまで長期に放置され続けてきた多くの中小型株は復活のタイミングを待っているとも考えられます。その典型的な指数であるマザーズ指数は株式相場の現状を如実に表しておりピークから2年を経過しなおも見切り売りで頭重い展開が続いてきましたが、コロナショック時のイレギュラーな安値水準を下回らずに推移している上に、休養十分で割高感のあったPER10倍以下の評価に甘んじている成長期待株も見出せ、出直りのタイミングを図る局面となってきたように思われます。プライム市場で人気化した海運株や一連の半導体関連などの主力銘柄も反転の動きが見られ、当面は戻りを試す展開が想定されるのかも知れませんが、ここ数年の中で個人投資家に人気があった長期低迷中の銘柄群にも関心が高まるものと期待されます。

2月からスタートしたIPO市場も残り2か月余り。10月も本日から月末まで4銘柄のIPOが予定され、それぞれに過去数期間の成長を背景に投資家のリスクマネーを呼び込むこととなります。また、既に11月のIPO5銘柄まで承認され、IPO銘柄に関心をお寄せの投資家のチェックが続いているかと思われます。特に11月末のウェルプレイド・ライゼスト(9565)は今後の成長が見込まれるeスポーツ事業を展開。まだ事業規模は小さいとしても成長スピードは速く注目されそうです。

今年はAI関連銘柄やデータビジネス、オンデマンドプリントなど新サービス企業の登場など結構面白い銘柄が相次いだように思われますが、一方で株価面においてはIPO後に明暗が非常に分かれています。成長期待と足下の好業績を背景にIPO後に上昇傾向が続く銘柄もあれば足下の不安感や知名度の無さからIPO後に下落傾向が続く銘柄もあり、中にはきっと来年に向けた有望銘柄も含まれているものと考えられます。全体相場の需給悪か

東京 IPO 特別コラム

ら昨年に比べ IPO 銘柄数は減少しているようですが、例年通りだとすれば12月にはまた多くの IPO 銘柄が登場してきますのでマザーズ指数の上昇と一体となってここから年末にかけて IPO 市場への関心が高まることを大いに期待したいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)

【お詫びと訂正】

前号の本コラム第203号にて取り上げましたイメージ・マジック(7793)の中で「プリントフルなど既に米国発祥の企業」としておりましたが、正しくはラトビア発祥の企業でした。謹んでお詫びし、訂正申し上げます。